

科目名	韓国の社会と文化			ナンバリング	COM352	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	金世煥	担当教員	裴鍾民				

授業の概要	韓国の食文化や政治、そしてポップカルチャーとしてのK-popとドラマなどから、最近の若者の教育事情や価値観に至るまでの韓国の現状を、データや写真、そして映像資料を交えながら、韓国の社会と文化を理解することを目的とする。また、在日韓国人の生き方としての共生という概念を理解しながら、毎年、日・韓政府主導で行われている日・韓文化交流事業に関してその意義を考える。						
到達目標	1.韓国に関する幅広い知識や理解を深めることができる。 2.異文化コミュニケーション能力や多様な価値観を身に付けることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	各授業のテーマに関わる関連資料やキーワードなどをインターネットなどの媒体を活用し事前に調べておいて、各授業の内容を正確に理解するようにする。韓国に対する自分の知識や考え方をまとめたプレゼンテーションを行う。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①韓国の文化を理解し、韓国文化の特徴や違いなどをいくつか説明することができる。 ②韓国に対する自分の知識や考え方をまとめた内容を発表することができる。	韓国の文化をより正確に理解し、様々な事例を挙げながら説明することができ、異文化コミュニケーションツールとして活用することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		50%
授業態度・授業への参加			○	○			20%
プレゼンテーション	○	○			○		30%

課題、評価のフィードバック	講義の後半に、講義内容に関する振り返りを行う。
---------------	-------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション（金）	授業の目的や到達目標、授業内容について解説する。	
	第2回	韓国語と日本語の類似性－歴史の観点から－（金）	韓国語と日本語はどの部分が似ているのかについて解説する。	
	第3回	韓国の食文化（金）	韓国の食文化について解説する。	
	第4回	韓国の住居環境（金）	韓国の住居環境や特徴について解説する。	
	第5回	韓国の政治と経済（金）	韓国の政治と経済について解説する。	
	第6回	韓国の財閥企業（金）	韓国の財閥企業について概説する。	
	第7回	韓国の教育制度と若者の価値観（金）	韓国の教育制度と若者の価値観について解説する。	
	第8回	韓国の兵役制度（褒）	韓国の兵役制度について解説する。	
	第9回	韓国ポップカルチャー研究①－K-POP市場－（金）	韓国のK-POP市場について解説する。	
	第10回	韓国ポップカルチャー研究②－ドラマ市場－（金）	韓国のドラマ市場について概説する。	
	第11回	韓国IT産業研究－ゲーム市場－（褒）	韓国のゲーム市場について解説する。	
	第12回	韓国の観光コンテンツ－観光産業の観点から－（褒）	韓国の観光コンテンツ産業について解説する。	
	第13回	韓国における北朝鮮（金）	北朝鮮の政治や経済などについて解説する。	
	第14回	在日韓国人の生き方としての共生（金）	在日外国人における共生について解説する。	
	第15回	自分が再発見した韓国の特徴やイメージの発表（金）	めとめた発表を行い、授業全体をまとめる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		参加型授業を目標に、講義中に質疑応答をしながら進めていく。		
授業外学習の指示		講義の内容を復習する。不明な点がある場合は教員に質問すること。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	教科書は使用しない。随時、資料を配付する。
参考書	特になし
参考URLなど	特になし
その他	